青 埋 文 第 ６７４号
令 和 7年 １２月８日

各　　位

青森県埋蔵文化財調査センター
所　長　　小　舘　孝　浩
（公印省略）

報告書に係る正誤表の送付について

平素より埋蔵文化財の保護について、格別の御指導を賜り感謝申し上げます。

この度、令和７年３月に送付いたしました発掘調査報告書の一部において、発掘調査の報告書の内容としては不適当な記載があったことが判明いたしました。

つきましては、下記のとおり正誤表をお送りするとともに該当箇所を削除することとしましたので、同封のシールを該当箇所に貼付いただきますようお願いいたします。

今後は発掘調査報告書に求められる内容を改めて確認し、再発防止に努めて参りますので、引き続き当センターの活動に御理解と御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

記

１　報告書名　「鳴瀬遺跡」（青森県教育委員会 2025　青森県埋蔵文化財調査報告書第 650 集）

２　正 誤 表　別紙のとおり

＜連絡先＞
青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042　青森市新城字天田内 152-15
電話 017-788-5701　FAX 017-788-5702

（別紙）

「鳴瀬遺跡」（青森県教育委員会 2025　青森県埋蔵文化財調査報告書第 650 集）正誤表

修正箇所	修正前	修正後
第２章第３節 「鳴瀬遺跡の地形と地質」 16 頁 25 行目	なお、小野ほか（2012）によると津軽平野では AD915 年の噴火（To-a）後のラハール堆積物が堆積していることを指摘しているが、試料を採取している十三盛遺跡付近は、上位沖積面と下位沖積面の区分が不鮮明となり、さらに下流のデルタ面に移行する地点になる。そのため、To-a を含むラハールが堆積した可能性は否定できないが、一般に火山ガラスの屈折率のみで十和田火山起源のテフラを識別することは困難であることを付言する。	削除